

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画（基本構想）			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
コミュニティ	(1)ともに支えあ い、安心して暮ら せるまちづくり	① 誰ひとり置き去 りにしない安心して 暮らせる地域社会 の形成	地域福祉	C	○青年部やこども会が活発だと、まちが活気づく。青年部や子供会が組織として成り立つ工夫をする。
				C	○人口減少や少子高齢化により、弱体化している町内会などに対し、何らかの支援を行う(市が文章作成や会計処理など、きめ細かなフォローを行う協力体制など)。
				C	○町内会は高齢化や若者不足が進んでいるが、昔ながらのやり方は変わらない。社会情勢に適した運営方法のマニュアルを検討して配布する。
				C	○町内会やコミュニティ活動に参加した市民に、減税特典などインセンティブをつける。
				C	○花壇の整備やごみ問題の取り組み、運動会、ある日の歩数計測など、町内会単位のコンクール、イベントがあれば、町内会の絆が深まる。
				C	○町内会に対して、イベント開催時に補助金を出す。
				C	○町内会同士が連絡を取り、交流を図ることができる仕組みづくり。
				C	○既存の町内会組織に新しい住民は馴染みにくかったり、世代間の生活文化の違いや、町内会の必要性を感じられず入会しない人もいることから、町内会制度自体の見直しが必要。
				C	○忙しい現役世代が気軽に参加できる、片手間サポート(仕事が忙しい現役世代も、何かのついでに少しの手伝いができる)の仕組みをつくる。
				C	○コミュニティを維持するため、乗り合いタクシーは、今後さらに必要とされるので、走行コースや台数など利用者の利便性を向上させる。
				C	○団体で利用できる乗り合いタクシーを検討する。
				C	○乗り合いタクシーを母町にも適用にするなど充実を図る。
				C	○畑や花、散歩など、共通の趣味のある人が、小さなイベントを細かく開催し、交流を図ることによるコミュニティの推進。
				C	○避難所の生活体験をすると、「支え合い」の必要性を体感できる。
				C	○移動スーパーや移動市役所を設け、高齢者や障がい者など移動が困難な人たちとの接点を増やす。
				C	○地域応援チームについて、町内会長宅だけをまわるのではなく、町内会館を使って交流人数を増やすことで、より地域の困りごとなどの把握、サポートができる。
				C	○民生委員との連携を強化する。
				C	○様々な活動の横のつながりを生む交流が必要。
				C	○様々なサポーターのLINEグループを作り、交流を推進する。
				C	○最近会わない、見かけないなど、近くにいる人が気負わずにサポートできる連絡窓口をつくる。
情報化推進				C	○ボランティアではなく、地域活動に参加するとポイントが貯まる仕組みをつくり、貯めたポイントで何かと交換できるインセンティブをつくる。
				A/C	○市ホームページが、どのようなキーワードで検索されているのかなどアクセス分析を行うとともに、魅力的かつパソコンやスマホでも分かりやすいよう改善する。
				A	○市のホームページは目的の情報に辿り着くことが難しいため、AI検索などを導入する。
				A	○市ホームページは更新したことが利用者に伝わりにくいため、Facebookなどで再発信する。
				B	○市ホームページから「ふるさと納税」をアピールするため、市独自のオリジナルページを作成する。
				B	○市ホームページから一部の施設だけではなく、様々な関係施策にリンクを貼り、フェイスブックにつながるよう改善する。
				C	○市ホームページやSNSをコンビニで閲覧、参加できるようにする。
				A	○SNSによる情報発信はFacebookだけでなく、様々な媒体を活用する。
				A	○多様な媒体を使いながら、行政コストをできるだけ抑え、利用者に情報を提供する。
				A	○光回線の普及が遅いので、不通区間について整備を図る。
				A	○光回線の普及は広範囲にはできないので、立地適正化計画などの計画の範囲から始める。また、市がコストをかけ過ぎないよう、事業者を積極的に取り入れる。
				B	○光回線について、停電時などの災害対策も必要。
				C	○全戸に対し、市がLAN環境を整備する。
				C	○ZOOM(会議アプリ)の使用方法について、広く市民が学べるようなセミナーを開催する。
				C	○タブレットのレンタルサービスを行う。
				C	○子育てや行政情報などに関するFacebookの更なる周知。
				C	○インターネット投票の実施
障がい者福祉	(1)ともに支えあ い、安心して暮ら せるまちづくり	① 誰ひとり置き去 りにしない安心して 暮らせる地域社会 の形成	障がい者福祉	C	○スマホで申し込みば、市役所で待たずに書類が受け取れる予約システムの構築。
				B	○車椅子の方は、地域の中でどうしても移動しづらい。まちのバリアフリー化を進め、障がい者が地域の中で生活しやすい環境を整える。
				B	○総合体育館などのスポーツ施設駐車場が凸凹だったり、公共施設がバリアフリーになっていないところがある。障がい者が安全に利用できるようバリアフリー、ユニバーサルデザインを含めた改修が必要。
				B	○障がい者が望む支援やサービスの提供が必要。
				B	○障がい者福祉といっても様々な障がいがあり、どの障がいがある方も不自由なく暮らせる支援を行う。
				B	○知的障がい者の雇用の方は一定数ある一方、車椅子などの身体障がい者の雇用の場が少ない。
				B	○障がい者が年金だけで生活することは困難で、経済的に自立し社会参加できるよう、就労場所や企業の障がい者枠の確保が必要。
				B	○障がい者がよりよく地域の中で暮らしていくためには、健常者の理解が必要であり、障がい者が町内会行事に参加するなど地域として取り組む。
				B	○現在、親との同居で生活を維持している障がい者が、今後、親が亡くなった後の問題が出てくる(8050問題)。
				B	○障がい者に対する災害時の支援について、要支援者名簿を活かした対策が必要。
				B	○ブラックアウト等の災害時に、発電機の設置など人工呼吸している人への対策が必要。
				B	○災害があった場合、障がい者が安全に避難できる場所があるのか課題。
情報化推進				B	○障がい者手帳を有している方であっても、行政サービスから取り残されている人がいるのは課題。
				B	○難聴者に対して、市役所各課窓口で言語通訳アプリを活用するなど、障がい者に対応した情報化も検討する。合わせて市がそうしたアプリを利用できる端末を貸し出す。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画(基本構想)			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
高齢者福祉	(1)ともに支えあ い、安心して暮ら せるまちづくり	① 誰ひとり置き去 りにしない安心して 暮らせる地域社会 の形成	高齢者福祉	B	○生活便利手帳の存在をもっと知ってもらうことが大事。市ホームページからダウンロードできるようにするなど、入手しやすい環境を整える。
情報化推進				B	○「生きがい」を持った高齢者を、どのように増やしていけばよいのか。老人クラブに入ったり、シルバー人材センターで活動することもその一つ。
				B	○高齢化が進み、高齢者対策に係る事業費が増加している。いかに元気な高齢者を増やしていくことができるのか、その健康管理も大切。
				B	○認知症は、在宅で面倒をみるのが非常に困難。老人クラブなどで認知症の学習会を実施する。
				B	○老々介護を支援する制度や仕組みを考え、訪問看護を含めたサービスを拡充する。
				B	○高齢者が一人になったとき、地域社会と繋がり、支えていく仕組みが必要。
				B	○介護サービスの入り口が分かりずらく、サービス量が少ない。
				B	○介護の分野でも人手不足が深刻で、今後、この問題が大きくなってくる。
				B	○高齢者の貧困対策、支援を拡充する。
				B	○成年後見人は財産を管理することから、個人より社会福祉協議会などの団体に依頼した方がよい。
				B	○8050問題(80歳の親が、50歳の子どもを支える。)などにも対応した支援制度を検討する。
				B	○インターネットやSNSが苦手な世帯に対し、市が端末を貸し出すなど、情報化の推進を図る。
				B	○高齢者や障がい者など情報化から取り残された世帯に対して、情報化をどのように推進していくのか課題。
				B	○高齢者は電子申請について関心が薄く、使い方が分からないので、申請方法のみではなく根本的な使い方、使用意義を浸透させる。
				C	○高齢者に対するパソコン導入の助成及びソフトのインストールや操作手順の学習支援。
保健	(1)ともに支えあ い、安心して暮ら せるまちづくり	② 健康で安心して 暮らせる保健・医療 環境の充実	保健	B	○子どもや妊産婦の受動喫煙を減少させる取組みが必要。
				B	○進まない飲食店での禁煙について、啓発活動を地道に続けていく。
				B	○自分の子どもからタバコを止めてと言われると禁煙を考える。学校でタバコの弊害に対する教育、啓発が大切。
				B	○健康を維持するためには、適度な運動が必要。
				B	○大人と子どもと一緒に運動できる環境整備を図る。
				B	○用途別の健康づくりができる施設のマップをつくり、施設間の移動に際し、綺麗な景色が見られるなど観光的な要素を加える。
				B	○ヘルシーマラソンなど、市民が健康づくりを楽しめる環境をつくる。
				B	○お酒の正しい飲み方を教えることが大切。
				B	○子どものストレスチェックも含めたメンタルヘルス対策の強化が必要。気軽に相談できる場所を増やすことにより、自殺者を減らすことにもつながる。
				B	○食育の取り組みとして、食と健康の全世代的イベントを開催する。
				B	○食からの健康づくりとして、地産地消を促進しマルシェを開催する。
				B	○健康診断の受診率を上げて、疾患の早期発見を図る。
				B	○高齢化が進み、医療費が増大している。健康寿命を延ばす取組みや、医療費の抑制を図ることが課題。
				B	○市内の特別養護老人ホームは、相当数の順番待ちがあると思うので、恵祥園の増築等を検討する。
				情報化推進	C
	A	○マイナンバーカードを普及させ、軽自動車税の支払いや印鑑証明書の発行をコンビニでも行えるようにするとともに、利用した方が得になるメリット感を打ち出す。			
	A	○マイナンバーカードは、セキュリティの問題もあるため、慎重に実施しなくてはならない。			
	A	○海外の先進的なカード利用について調査、研究する。			
	B	○電子申請可能な手続き数を増やしてから、マイナンバーカードの普及率を上げる。			
	地域医療	(1)ともに支えあ い、安心して暮ら せるまちづくり	② 健康で安心して 暮らせる保健・医療 環境の充実	地域医療	B/C
B/C					○市民の利便性を高めるため、市内のコンビニで各種証明書が取得できるようにする。
C					○申請書類への記入の簡素化(当たり前情報の省略)。
C					○電子申請のみならず、周辺のお得情報も周知する。
B					○市立美唄病院は本当に必要なのか、なくてもよいのか、議論が必要。現在の老朽化した施設のまま、数年間持ちこたえるのは非常に不安がある。
B					○市民に愛される市立美唄病院になってほしい。
B					○市立美唄病院は、建物が古いことから耐震性に不安がある。一方で市の基幹病院として、なくてはならない病院であり、他市との合併は行うべきでない。車のない方、免許のない高齢者がたくさんいる。
B					○市立美唄病院は早期に建替えるべき。財政状況から反対する声もあるが、建替えた後の病院は、後世の人たちも使用するのだから、費用負担を残してよい。
B					○市立美唄病院の建替えを止める決断も勇気ある選択の一つ。もし、建替えを止めるのであれば、その財源を活用して医療の充実を図る。
B					○高齢者などが市外まで行かず、市内の医療機関で受診できるよう、今ある医療資源を活用して、専門医、専門スタッフの確保も含め、医療の充実を図る。
B					○地域医療の議論をさらに深め、市民の思いを受け止めた上で、市立美唄病院の建替えの方向性を決定する。建物だけ立派に建替えたとしても、医療スタッフが充実しなければ意味がない。建替えにかかるコストが、子どもたちの世代にまで先送りされていくような無駄遣いはしない。
B					○診療科のフルセット主義からの脱却が必要。すべての診療科をまかなう病院の建替えが難しいのであれば、重症患者の救急搬送の充実を図る。救急の場合であっても、市民が安心できる体制が必要。
B					○本当に救急車の必要な方が、必要な時に利用できるよう、市民の理解促進を図るため、啓発が必要。
B					○救急車が到着しても、受入先の病院が決まらなと発達できない。他市の医療機関が美唄の救急車を受け入れてくれるような連携体制の強化が必要。
B	○高齢化により、訪問診療や訪問看護のニーズが増加しており、スタッフの充実や医療環境の整備が必要。				
B	○小児科や産婦人科があることは、子育て環境を整えることにもつながる。				
B	○市外の病院を含め、かかり付け医を持つことは大切。				
B	○心拍数バンド(日常の健康、心拍数を数値で管理する)の普及を図る。				
公共交通	(1)ともに支えあ い、安心して暮ら せるまちづくり	② 健康で安心して 暮らせる保健・医療 環境の充実	生活交通	A	○代行タクシー業者を誘致する。
				A	○スーパーや医療機関などが事業主体となる巡回バスを運行させ、市民生活の利便性を向上させる(スーパー → 病院 → 銀行 → 住宅 → 駅)。
				A	○市民バスや乗合タクシーの周知を図り、利用者の目的に合った運行体制の拡充を図る。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画（基本構想）			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
商工業振興	(2) 地域資源を活かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり	① 地域資源を活かした「にぎわい」づくり	商工業振興	A	○DVD等レンタル店、書店、ファーストフード店などの企業誘致を行う。
				A	○企業誘致に対する首都圏プロモーションを引き続き実施する。
				A	○企業誘致では、他市町村より良い条件を提示する。
				A	○雪冷熱エネルギーの認知度を、さらに高めていく。
				A	○市民に対し、ホワイトデータセンターのメリットをさらにPRする。
				A	○空き家が多いので、まちの景観をよくできない。
				A	○高齢者、障がい者が交流の場まで移動が困難。
				A	○地域おこし協力隊による、まちなか交流イベントの開催。
				A	○中核店舗であるコアビバイの拡大。
				A	○まちなか交流広場周辺に公共施設を配置する。
				A	○若い世代に補助金を交付する。
				A	○増大する外国人労働者（実習生）に対応するため、企業や実習生に助成するなど、受入体制を整備する。
				A	○アンテナショップは規模が小さく、郊外にあるため、まち中に道の駅のような賑わいのある施設を整備する。
雇用対策	(2) 地域資源を活かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり	① 地域資源を活かした「にぎわい」づくり	雇用対策	C	○魅力あるパンフレットを作成し、新卒者に渡すなど、地元企業のPRを継続する。
				C	○新卒者はどのような企業に入社したいのか調査し、その企業の誘致に努める。
				C	○新卒者が地元企業に就職したときに、プレゼントなど何らかの優遇措置を設ける。
				C	○求人情報の乖離を無くし、実態と会った情報を提供する。
				C	○高齢者も働ける雇用形態や、高齢者の人材バンクをつくり、会社側の求人活動をサポートする。
				C	○様々な業務に関わるテレワークを誘致するなど、在宅業務を増やし、子育て世代でも雇用時間に縛られない、働きやすい環境を整備する。
				C	○結婚や子育てで一度仕事から離れた方が、安心して仕事に復帰できるよう、3日間程度の職場体験を行うことに、市が支援する。
				C	○女性が働きやすい環境を整えるため、保育時間の延長や祝日・週末の保育実施、市立美唄病院の診療時間の延長、休日診療を行う。
				C	○小学生からキャリア教育を導入し、働く意義と仕事が自分の人生における重要なウェイトを占めることを教える。
				C	○転職でのキャリアアップや女性の社会進出など、働き方の多様化などから、リカレント教育（学校を卒業し働くようになってから、必要に応じて再び教育機関に戻って学ぶシステム）を推進する。
				C	○ライフ・ワーク・バランス（個々の希望に応じて、仕事と、子育てや介護、自己啓発など仕事以外の生活と調和のとれた状態）を考える機会をつくるため、キャリアコンサルティングが必要。
				C	○事業所が、若者の正規雇用に力を入れている事業に対し助成する。
観光・交流	(2) 地域資源を活かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり	① 地域資源を活かした「にぎわい」づくり	観光・交流	A	○遅れている観光施設やWi-Fiの整備を図り、交流を拡大する。
				A	○温泉以外でも夜も楽しめる施設を整備し、滞在型の観光地づくりを推進する。
				A	○ボルダリング、スカイダイビングなど美唄ならではの特色ある体験型観光を推進する。
				A	○宮島沼のように朝早くから楽しめる施設などを整備し、市内に立ち止まらせる工夫が必要。
				A	○美唄に滞在しながら、観光や市民との交流を行う仕組みをつくる。
				A	○観光名所の見せ方を工夫する。
				A	○美唄では、日本文化の体験や日本語学習、サイクリング、ボルダリングなど、様々な体験や交流を行うことができるので、市民、行政、団体などが役割分担を明確にして取り組む。
				A	○おもてなしのまちとして、「やさしい日本語」の周知を拡大させ、言葉の壁を取り除く取り組みを行うことで、外国人の受入体制の拡充を図る。
				A	○SNSの発信は、特にインパクトのあるものでないと、発信力が弱いため、ユーチューバーなど影響力のある人にアスパラなどを食べてもらい、それを発信してもらうことで美唄を知ってもらう。
				A	○市内には宿泊施設が少ないので増やす。
				A	○やきとり店をもっと増やす。
				A	○やきとり、アスパラなどは、若者に対し興味を引くものなのか疑問。
				A	○飲食店や公共施設でWi-Fi環境を充実させる。
				C	○まち中にフリーWi-Fiがあると観光促進にもつながり、市からの情報も受け取りやすくなる。
				B	○将来的に公共施設のWi-Fi整備率100%を目指す。
情報化推進				C	○フリーWi-Fiを市内全域（最低でも中心部）に整備する。
				A	○市内のWi-Fi利用可能場所の周知を図る。
				A	○移住定住対策として、子どもの医療費を中学生まで無償化する。
				A	○移住定住対策として、住民税を下げたり、幼児への優遇措置を行う。
観光・交流	(2) 地域資源を活かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり	① 地域資源を活かした「にぎわい」づくり	移住・定住	A	○岩見沢在住者を対象に、美唄に住むメリットをPRする。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画（基本構想）			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
農業振興	(2) 地域資源を活 かした「にぎわい」と 「活力」あふれるま ちづくり	② いのちを育む食 と農の振興	農業振興	A	○エゾシカの被害防止には罾が効果的なので、罾に関する勉強会や、罾にかけた後始末に対する支援、助成へと拡充する。
				A	○エゾシカによる農業被害や、人身への被害を防ぐため、鳥獣対策を拡充する。
				A	○マガンを観光に利用している一方で、農家にとっては麦の食害などがあり、支援の拡充が必要。
				A	○農家戸数が減る一方で規模拡大を図っており、ドローンや無人ヘリ、GPSシステムなど、新技術の導入に向けたICT農業の支援が必要。
				A	○他市では作物の時期をずらす農法により、販売額が1.5倍に増額した例があり、美唄でも研究、研修を実施する。
				A	○美唄の土地や風土を活かし、オールシーズンで出荷できる作物を調査・研究する。
				A	○意欲ある担い手はいるが、土地が足りていない。美唄には何も作られていない耕作放棄地がほぼなく、逆に土地が欲しい状況。
				A	○ハスカップは、収穫量はあるが収穫者が少ない。労働力の確保も必要。
				A	○就農者の研修、教育が必要。
				A	○若手農業者や女性など、これからの担い手が連携、交流する場が必要。
				A	○農協と、行政、関係機関との綿密な連携が必要。
				A	○飲食店で安全安心な美唄の食材を提供することで、地元農産物のPR、地産地消の取組み、食育を推進する。
				A	○遊びをモチーフにした食育をすれば、世代を問わず多くの人がいろいろなことを学び、知識を深め、それぞれに発信・PRしていく。
				A	○子どもの頃からハスカップの食育により、消費拡大するとともに、健康面からもPRする。
				A	○子どもの頃からハスカップなどの食育を通し、“美唄ブランド”を子どもたちが胸を張ってPRできるようにする。
				A	○学校の授業で北海道の農業は都道府県で何番なのかを学ぶことから、美唄の農業に対する興味がわき、認識が深まる。
				A	○イエス・グリーン表示という言葉の認知度を広め、美唄産農産物の信頼度を高めていく。
				A	○美唄独自の作物、お米などのブランド化を推進し、PRを図る。
				A	○美唄農産物の生産量や販売額もPRする。
				A	○6次化は、PR方法を工夫し、推進していく。
				A	○ほ場整備に係るコストは増えていく一方で、補助額はこれまでと変わらず、結果的に負担が増えており、補助の拡充が必要。
				A	○山を維持するため、池や河川の維持、老朽化対策が必要。
				A	○基盤整備の拡充について、地域的に進捗していないところがあるので、市全体として推進していく。
				A	○基盤整備が進むことによって、そこで栽培されていたハスカップやアスパラがつぶれていくことがあるので、これらの作物を維持する。
				A	○千歳や旭川とは全く違う特性を持つ、美唄の農道離着陸場を活用・拡大して、海外富裕層を誘致する。
情報化推進				C	○全ての農地でトラクターの自動運転が可能になるなど、新技術の導入に向けたICT農業を推進する。
農商工連携	(2) 地域資源を活 かした「にぎわい」と 「活力」あふれるま ちづくり	② いのちを育む食 と農の振興	農商工連携	A	○コンビニのプレミアム商品のような、統一感のある美唄ブランド(“美唄プレミアム”)をつくって販売する。
				A	○一般的に食べやすい、誰にでも受け入れやすい商品を開発する。
				A	○商品開発のための研修会や勉強会を開催することによって、新たな商品が増える。
				A	○宣伝は価格ではなく、その商品の特長や安心・安全面などを強調する。
				A	○デパートや有名スーパーへの売り込みなど、広報宣伝を強化する。
				A	○美唄は補助金を出しているが、アフターケアにあたる宣伝などが足りない。
				A	○特産品の市民への周知が不足しているので、浸透を図るため、PRを強化する。
				A	○キャラクターとコラボするなど、他の媒体を使って様々な層にPRする。
				A	○焼き鳥、鳥めし、ハスカップなどはよく知られているが、豆乳焼き菓子、スノーフード、黒ニンニクなど、まだまだ知られていないものがあり、PRが不足している。
				A	○市民がお土産に美唄産品を使う場合、特典を付ける。
				A	○新商品の実際の売れ筋を市民にも理解いただく。
				A	○イベントや海外でPRすることも大事だが、まず市民に知ってもらうため、市民の目に触れる機会をもっとつくる。
				A	○新たな商品が開発された時、アンテナショップ以外のまちな中や駅近くでも販売すると、市民が目にする機会が増える。
				A	○市民が美唄の特産品を食べる機会が少ないので、イベント等でその機会を増やす。
				A	○どこでどのようなイベントに出ているのか、もう少し細かい情報が必要。
				A	○商品開発のための研修会や勉強会を開催することによって、新たな商品が増える。
				A	○単価の設定や加工方法、消毒作業、デザインなども含め、統一した分かりやすい内容で総合的な学習会を実施する。
				A	○アプリを活用した商品の効果的な販売。
				A	○技術力の高いシナリオライターのような人が、消費者に訴えかける販路拡大の仕組み、ストーリーを構築する。
				A	○補助金に対する情報が浸透しておらず、新たな事業を起こしたくても資金の目途がなくできない。周知とともに、支援を拡充する。
				A	○ピパオイの里プラザの加工場は、使用料が高く継続して使用することは困難。安価な加工場を提供する。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画（基本構想）			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
子育て支援	(3) 地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり	① 安心して子育てできる環境の充実	子育て支援	B	○市民アンケート(H30年度実績)では、8割の市民が子育てしにくいまちだと思っており、助成だけではなく、これまでとは違う支援も必要。
				B	○子どもの虐待防止のための取り組みが必要。
				B	○常設の子ども食堂を設置する。
				B	○子育てには医療環境が大切であることから、市立美唄病院の小児科を継続する。
				B	○子どもが遊べる遊具のある公園が非常に少ないので、環境整備を図る。
				B	○一時保育の充実や保育士の増員など、保育環境の充実を図る。
				B	○保育所の時間枠を延長するなど、共働き世帯でも安心して子育てできるまちを目指す。
				B	○保育所の受入体制について、必要な方が不便を感じないような方法を工夫する。
				B	○子どものいる母親同士がお互いに支援し合える仕組みをつくる。
				B	○幼児教育の無償化について、市として全てが無償化になるよう支援する。
				B	○乳幼児健康診査等受診率が100%を切っているのは大きな問題。すべての子どもが受診できるよう推進する。
				B	○公立幼稚園が市の中心部にはないのは如何なものか。
				B	○美唄市を芸術のまちにして、芸術家を家族ごと受け入れる。
				B	○子育て支援よりも、雇用先の確保や企業誘致など、子どもを育てられる環境づくりが先に必要。
情報化推進				B	○養育費の問題や生まれてきた子どもに障がいがあった場合の支援のほか、幼児虐待から子どもを守るネットワークなど、子どもに関するあらゆることを相談できる窓口の一元化が必要。
学校教育	(3) 地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり	② 生きる力を育む教育と次代を担う人材育成	学校教育	C	○子育てに関する情報など、身近なコンテンツを多く盛り込んだアプリをつくり、市民が情報を共有する。
				B	○費用対効果を高めるために、一つの事業で複数の効果を出せるものが必要(放課後児童施設－学習－体力づくり－教員の負担軽減など)。
				B	○子どもたちの学習促進のためには、学校と家庭との連携が必要。
				B	○学力の向上は大事だが、学力偏重は良くない。家庭学習においても子どもたちの自主性を育むことができれば、自然と学力の向上につながっていく。
				B	○早寝、早起き、朝ごはんなど、親を含めた、子どもたちの生活習慣を見直さないと、学力の向上につながっていかない。
				B	○様々な習い事や部活動で、家庭学習の時間が確保できない子どももいるため、学校の授業で暑さ、寒さ対策を含め、子どもたちが授業に集中できる環境を整える。
				B	○小中学校の施設整備については、整備計画を立てた上で具体的に推進する。
				B	○グリーン・ルネサンス推進事業については、実施から10年が経過したこともあり、改善すべきことがないのか検討する。
				B	○子どものときからICT学習を進める一方で、目や脳の発達など健康問題にも気を配る。
				B	○子どもたちにとって、学校は楽しくなくてはいけない。
				B	○教育に対して親の認識が甘く、学校任せにしている人がいるので、親の認識を変える取り組みが必要。
				B	○閉じこもりや不登校について、根本的に学校に行きたくない理由があり、その問題解決が必要。
				B	○市内の高校を存続するためにも、地元の高校への進学率を高める。
				B	○情報化に関して、子どもたちの環境整備を図る。
平和施策	(3) 地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり	② 生きる力を育む教育と次代を担う人材育成	平和施策	B	○被爆した広島や長崎との交流や、原水爆の悲惨さを訴える展示などを通し、戦争の悲惨さを伝承していくことが必要。
				B	○戦後70年以上が経過し、戦争体験を語ることができる人がいなくなってきたので、戦争の遺族会などとの連携、交流を検討する。
				B	○現代社会は、PTSDや表現の問題など、学校が戦争の悲惨さを教えることに一定の制約がある。学校以外の場所で、それを考えることができるものがあれば、子どもを含め、市民皆が平和について考えることができる。子どもの頃から平和教育を行うことが、大人になってからの判断基準につながっていく。
				B	○戦争の悲惨さを訴えるアニメや映画などを、道徳の授業で子どもたちに見せる。
				B	○郷土史料館を活用して、戦争の悲惨さを訴える映画を、子どもたちに無料で上映する。
				B	○学校に出向いて、平和について考える出前講座を開催する。
				B	○平和教育を学校で行うことは大事だが、憲法に関わるものになると教育と政治の難しさもある。
				B	○美唄の核兵器廃絶平和都市宣言は画期的だ。市の総合計画に平和施策について記載のある意味は大きい。
				B	○戦争の悲惨さを訴える本を、子どもたちに読み聞かせてあげる。
芸術・文化・生涯学習	(3) 地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり	③ 文化芸術を育む活動と生涯学習・スポーツの振興	芸術・文化	B	○鑑賞のみの芸術文化だけではなく、唄に関わる参加型の芸術文化や、ハード、ソフトの支援が必要。
				B	○廃校を作家の工房として利活用し、芸術家を誘致する。
				B	○子どもの美術的な感性を磨くためにも、学校でアルテピアッツァ美唄を活用する。
				B	○郷土史料館にある貴重な歴史を、観覧者に上手に伝えることができる仕組みをつくる。
				B	○郷土史料館は、開館以来40年近くになり、収蔵庫にも沢山の貴重なものが保管されていることから、展示物の入替を行う。
				B	○市内の美術館、史料館、スポーツ施設など、有料、無料に統一感を持つ(市内外とも無料・有料、市民は無料など)。
				B	○炭鉱だけでは人は来ないが、芸術とからめることによって人が集まる。
				B	○炭鉱メモリアル森林公園について、坑口には説明書きや柵もなく、排水も悪い。最近は炭鉄港の関係でも見学者が多くっており、何らかの対策が必要。
				B	○炭鉱メモリアル森林公園の巻揚機付近に、炭鉱遺産と関わりのない現代アートが設置されているが、炭鉱遺産と現代アートは融合しないので、設置場所を移動する。
	(3) 地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり	③ 文化芸術を育む活動と生涯学習・スポーツの振興	生涯学習・スポーツ	B	○通年を通し、天候に関わらず実施できる人工芝の室内運動場を整備し、子どもや高齢者の体力の維持・向上などを図る。
				B	○市内で行っている趣味やスポーツなどすべての習い事について、その一覧があれば利用しやすい。
				B	○書籍のデジタル化や、図書館で借りた本の値段が表示される図書館通帳などの取り組みを含め、若い世代が図書館をもっと活用できるよう工夫する。
				B	○市民会館は、土日であっても予約の空きがある。施設を活用してもらえよう、市内外の各種団体や、コンサート会社等へPRを強化する。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画(基本構想)			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
自然保護	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	① 豊かな自然環境の保全と共生	自然保護	C	○宮島沼の水質の向上を図る対策として、自然の力を活用する施策を検討する。
				C	○宮島沼の水質について、市民や観光客に変化の状況が分かるよう周知する。
				C	○宮島沼の駐車場は整備されているが、ピーク時には足りない印象がある。
				C	○宮島沼での環境学習会の参加者確保について、交通の便をもっとよくすると参加しやすくなる。
				C	○宮島沼でマガン以外の生物の生態系について学ぶ。
				C	○観光客は、マガンの来る時期に限定されるので、普段からイベントの開催やマガン以外の魅力探しなど、観光客の平準化を図る。
				C	○宮島沼を活用したイベント等の開催(ウォーキング・ランニング／宮島沼に来てくれた人の足型でフォトギャラリーを製作し、イルミネーションをつけてパワースポット化／宮島沼に集合した市民の輪フォトを撮影／写真などを活用した人気投票／地球の素晴らしさを学ぶツアーを組んで宮島沼へ行く／宮島沼の保全パズルを作って参加してくれるサポーターを募る)。
				C	○宮島沼にキャンプ場を整備する。
				C	○宮島沼が舞台の映画を高校生に作ってもらう。
				C	○滞在しているマガンの中から数羽を決めて、名前をつける。
				C	○マガレンジャー以外で、子どもたちへの環境学習を実施する。
				C	○子どもたちが興味を持てるよう、マガンが飛び立つ迫力あるPVを作成する。
				C	○宮島沼が描かれたトラックをつくり、教育用図書館バスのように学校を回って環境についてPRする。
環境行動	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	① 豊かな自然環境の保全と共生	循環型社会	C	○年に4回くらい完全に電気を使用しない1日(夜)を作る。
				C	○化石燃料を削減し、雪エネルギーを活用する。
				C	○車の利用を減らすため、公共交通や徒歩ででかける日をつくる。
				C	○買い物のマイバッグ利用者の割合を出して、全国平均と比較するなど見える化する。
				C	○二酸化炭素の減少値など活動成果を数値化して市民に周知し、環境行動に取り組む有効性を理解してもらう。
				C	○取り組みをエネルギー換算して公表する。
				C	○中高生がアイデアを考え、プレゼンしてもらい、コンテストで優勝した案の事業展開を図る。
				C	○地球にとって良くない行動が何かを知る。
				C	○小学生に毎年、今年一番の地球にやさしい生活を発表してもらう。
				C	○エコセミナーを休みの日に開催するなど、市民が環境行動を理解しやすい環境を整える。
				C	○環境行動に取り組めるコンテンツとその効果が一目で分かるアプリをつくる。
				C	○脱プラスチックや、スーパーなどの買い物に自転車・徒歩で来るとポイントが貯まるBIBAIマイルやエコバックのプレゼントなど、インセンティブを付ける。
				C	○地域をきれいにする活動を続けている町内会に、3年ごと、5年ごとに粗品をプレゼントする。
				C	○クリーン作戦にポイント制を導入し、毎年参加するとゴミ袋などの参加賞がもらえる仕組みをつくる。
				C	○クリーン作戦の参加回数など、頑張った人を表彰する。
ごみ処理				C	○循環資源について、展示など市民が認識しやすいよう工夫する。
				C	○リサイクル率を公表して、全国の数値と比較する。
				C	○再資源化した金額を市民に周知することで、やる気の醸成につなげていく。
				C	○再資源化を市の産業に位置づけ、まちの振興を図る。
				C	○再利用、再資源化の取り組みをもっとPRする。
				C	○建物や紙、袋、服、プラスチック、その他燃えないゴミ、粗大ごみなど、様々なものを再利用する。
				C	○建物のリサイクルとしてDIY(素人が何かを自分で作ったり修繕したりすること)を推進する。
				C	○エリアごとのゴミの量を公表し、ゴミステーションに貼るなど見える化する。
				C	○ごみの排出量が各家庭で分かるようにする。
				C	○分別しない人はずっとしない。ゴミの分別について分かりにくいこと、面倒なことは何か、市民から意見を募る。
				C	○生ゴミを減らすために、食材の有効活用について料理教室を開いたり、展示や冊子をつくって配布する。
				C	○生ごみのたい肥を使った野菜をブランド化し、協力者に配る。
				C	○学習として、処理施設見学ツアーを実施する。
				C	○不法投棄ゴミを集めて目立つところで見せることにより、啓発を図る。
				C	○売る人、買う人の両方が得をする包装減量の仕組みによるポイント制度や、マイ食器を持って行くと食材が買えるシステムなど、インセンティブを付ける。
防災・防犯・交通安全	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	② 安全・安心なまちづくり	国土強靱化・防災・交通安全	C	○防犯のために、まち中に防犯カメラを設置する。
				C	○防災組織と防犯組織を統合し、機能の強化を図る。
				C	○タクシーやバスが犯罪に巻き込まれた際に、ボタンが点灯して社外に危険を知らせるようなものを、一人住まいの高齢者宅などに設置し、警察と連携した安否確認を行うHelp meボタンの設置。
				C	○市が準備できる災害備品の数は限られるので、各家庭においても災害備品を準備する。
				C	○近年多発かつ大規模化している自然災害に対して、災害発生の予知に力を注ぎ、事前に危険を回避できるようにする。
				C	○避難所がどこにあるかの周知徹底を図るとともに、避難所の居住性を高める。
				C	○避難所での生活体験をすることにより、災害時に不足しているものの把握や避難所生活を理解する。
				C	○防災道の駅を設置する。
				C	○市民が災害時の動きを理解できるよう、周知徹底を図る。
				C	○通学路の道路・歩道の重点的整備による、子どもたちの安全確保。
				C	○見えにくい道路標識や区画線の更新、交通事故が起こりそうな危険な道路の改修が必要。
				C	○人、自転車、自動車に関わらず、交通マナーが悪いので、マナーを向上させる対策が必要。
				C	○歩道のない道路を抜け道にしたり、交通ルールを無視する車両があり、地域住民が危険にさらされている。交通ルールを守るよう、ドライバーへの周知を図る。
				C	○近隣自治体との連携、協力による防災訓練の実施。
				情報化推進	

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画（基本構想）			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
消防	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	② 地域の安全・安心の確保	消防・救急	C	○未病者を表彰し、商品券などをプレゼントする。
				C	○予防医学の講習会を開催し、病気にならないよう普段から気を付ける。
				C	○救急車の走行距離が多くなるので、故障前の早い段階で更新する。
				C	○高齢化により救急車の出動回数が増えるので、救急タクシーの導入について検討する。
				C	○救急車の適切な利用をさらに周知して、職員及び機器の負荷軽減を図る。
				C	○「こんな時は119番！」の一例を記載したステッカーを作成し、配布する。
				C	○消防車や救急車の台数・消防隊の人数が限られていることから、広域連携を検討する。
				C	○消防団員が高齢化していることから、市役所OBを勧誘するなど、組織強化を図る。
				C	○各家庭において、消火器や火災報知器の設置・点検、取り扱いの方法について周知し、万一の備えを万全にする。
				C	○傷病者を自衛隊と協力して、空からも搬送する。
消費者保護	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	② 地域の安全・安心の確保	消費者保護	C	○被害を未然に防ぐために、市や福祉会館、病院、銀行、商業スペースなどで気軽に相談できる窓口を設置する。
				C	○被害を未然に防ぐために、身近な人や町内会、老人会などと連携し、隣近所に相談できる環境（孤立化の防止、地域の声かけ、見守り体制の強化、出前講座など）をつくる。
				C	○被害を未然に防ぐために、市などが講習会を開催したり、警察と連携して特に高齢者などの被害防止に努める。
				C	○困った時に、ラインやフェイスブック、ホームページで気軽に相談できる体制をつくる。
				C	○消費者被害の実態を、広報紙やホームページなどを活用し、動画を含め、分かりやすく周知し、情報をもっと身近に共有する。
				C	○普段から高齢者などに関わるデイサービスなどの職員に、消費者被害の周知を図る。
				C	○消費者被害にあわないよう、自らが気を付ける意識を持つ（知らない人から電話がかかってきた時は、名前で答えず、”もしもし”と応答、留守番電話にしてすぐ取らない、インターネットでの売買知識を身につけるなど）。
				C	○市が、録音機能付電話を全世帯に設置したり、リースできるようにする。
				C	○もし高額商品などを買ってしまったら、クーリングオフ制度を活用する。
				C	○消費者被害にあった場合に備え、法律相談の内容について、予め分かりやすい相談の流れを周知する。
				C	○市役所に弁護士の無料相談窓口を設ける。
				C	○市役所に弁護士との無料相談窓口を設ける。
都市基盤整備	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	③ 快適な都市空間の形成	都市基盤整備	C	○凸凹な道路を安全に改修する。
				C	○歩道の清掃車を購入し、歩道の清掃を行う。
				C	○道路脇の花壇を整備し美しい街路をつくる。
				C	○道内には無いインスタ映えするストリートを作る。
				C	○まちが暗いので、センサー付きライトなど街路灯を整備する。
				C	○除雪後の道路脇の交差点の雪山を崩して、交通の安全を確保する。
				C	○道路により除雪差がないよう、道路除雪の均衡を図る。
				C	○高齢者は除雪が入った後の自宅前に残る重い雪の除雪が困難なので、高齢者が住みよい環境にするためには、間口除雪サービスを拡充する。
				C	○無料で使える融雪溝を整備する。
				C	○美唄駅周辺に市営住宅、商業施設、医療施設等を集約し、少子高齢化を見据え、将来人口に見合った適切なものとする。
				C	○市立病院まで雨風に当たらずに行ける市営住宅や日光浴ができる全天候型の広場、重い荷物を運べるレール付き道路、犬のフン箱付きお散歩レーンなど、誰もが住みやすい環境を整備する。
				C	○川底の除草など、災害時に備えた普段からの安全管理が必要。
				C	○幼い子どもが不安なく、安全に遊ぶことができる公園を整備する。
				C	○できるだけまち場に居住することにより、水道など行政コストに係る費用対効果を高める。
				C	○水洗化されていない地域のトイレを水洗化する。
				C	○自転車の通行レーンを整備しないと危険。
				C	○未利用地を解消し、有効活用を図る。
				C	○用途地域の見直しを行う。
景観・緑づくり	(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり	③ 快適な都市空間の形成	景観・緑づくり	C	○人口規模や年齢層に合わせた公園、市外からも訪れる魅力的な公園を整備する。
				C	○市内の公園を統廃合して、公園機能を充実させる。
				C	○樹木の再生能力を活かして、温暖化対策を図る。
				C	○公園を利用して、美しい景観と防災の共存を図る。
				C	○美唄富良野線の開通を視野に入れた、沿線上の炭鉱メモリアル森林公園、我路ファミリー公園、我路キャンプ場が環境客で賑わう環境整備。
				C	○親子でガーデンづくりを行うなど、気軽に市民参画が進むまちづくりを推進する。
				C	○ボランティアに頼らないまちづくりを進める。
				C	○まちのシンボルとなるような樹木や花を集約して、景観の向上を図る。
				C	○美唄百景のパフレットを作る。
				C	○インスタ映えするような場所を作る。
				C	○野生動物と自然環境の共存を図る。
				C	○野生動物と自然環境の共存を図る。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画（基本構想）			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
協働のまちづく り	(5) 市民が主役の 誰もが活躍できるま ちづくり	① 性別や年齢、障 がいに関係なく、誰 もが活躍できる社会 の形成	協働のまちづく り	A	○広報紙は、毎年同じ時期に同じような内容しか載っていないと感じるので、刷新を図る。
				A	○広報紙はこれまでの内容にとらわれず、町内の情報や商店街の情報、口コミ情報など、多様な情報を取り入れる。
				A	○広報事務は活字だけでは古い。今の若い世代の感覚を取り入れた、会議の様子や議会の生中継など動画配信する。
				B	○ホームページや広報紙メロディーなどで情報周知を図っているが、情報発信が一方通行になっている。情報の発信側、受け手側とも一方通行になってはいけない。
				A	○まちづくり地区懇談会への参加率が悪いため、参加率を高める工夫が必要。
				B	○協働のまちづくりを行うためには、まちへの愛着が必要。愛着があれば、まちづくりに進んで参画する。
				B	○会議に参加する人は、いつも同じような人だと思う。まちづくりの参画度を高めるため、参加者に対し、まちづくりに参画した証となる感謝状等を渡す。
				A	○まちづくりへの参画は同じ人ばかり選ばれているので、無作為に抽出する。
				C	○学校や病院のほか、様々な事業に対し、分かりやすく楽しい「まちづくり参加メニュー」をつくり、参加者を募る。
				C	○市長が市内のお店などに出向き、市民と気軽に話をするタウンミーティングを実施する。
				C	○まちづくりのアイデアコンテストを実施し、グランプリに輝いたアイデアを表彰し、実行する。
				C	○趣味や特技、能力の登録制度を設け、必要な方が必要な時に依頼できる仕組み（アプリの開発など）をつくる。
				C	○サポートした人に対し、ポイント制度などインセンティブをつける。
				C	○まちづくり活動の終了時に余興を催し、多数の参加を促す。
				B	○情報発信を通し、市と市民が同じ意識を持つことが大切。情報を共有することにより、市民が自発的に活動できることもあ る。
				C	○高齢者の生きがい対策とまちづくり活動の一体化を図る。
				B	○様々な施策を単発で行うのではなく、関連する施策と連動して実施することも必要。行政だけではなく、市民も同じ意識を 持つ（子育てサポーターの活用や保育士を増やし、一時保育を充実させることは、まちづくりと同時に男女協働参画の推進 にもつながる）。
				B	○まちづくりについて、官ではなく、民が主導する会議も必要。官が主導すると一方通行になりがち。
				A	○様々な会合で若者の参加が少ない。若者の参画意欲の向上を図るため、市民交流会など若者が参加しやすい環境をつ くる。
				A	○地域のお祭りなど子どもが参加、活躍できる取り組みをすれば、親や祖父母も参加する。
				B	○会議や講座などに参加できなくても、まちづくりについて意見を発信している人がいる。SNSのコメントなども参考にする。
				C	○登録者に対し、様々なまちづくりに関する情報をメール配信する。
				A	○地域のネットワーク構築や高齢者、足の不自由な方などのマップを作成するなど、震災時に安否確認がとれる体制を整え る。
				A	○防犯・防災や安心・安全な暮らしについて、広報紙を使いながらどのように情報提供し、要望を拾い集めていくかというの が今後の課題。
				B	○まちづくり推進室など、まちづくりを総合的に展開するため、分かりやすい窓口を設置する。
				B	○まちづくりの具体的な内容が分からないという声があるので、町内会などの単位で情報共有を図る。
				A	○今の時代に合った方法で、市民意見を把握できる仕組みを考える。
				C	○データ放送の周知を図る。
				C	○まちづくり地区懇談会のライブ放送や動画化の配信。
				C	○市民アンケートを電子化し、Webでも回答できるようにする。
				C	○公共施設の一画を市民団体に貸し出し、団体が思い描く拠点をつくる。
				C	○外国の都市と連携して、数年単位の目標を立てて、まちづくりを促進する。
				C	○市の財政が厳しくなっていることを十分市民に理解していただき、行政コスト削減のため協働していただく。
				A	○サテライト・キャンパスの講座には、もっと実用的な内容を取り入れる。
				B	○サテライト・キャンパスの講座内容を市民公募する。市民が自ら考えた講座を実施できると、楽しさが伝わる。
				A	○サテライト・キャンパスの情報が少ないため、もっと情報を発信する。
				A	○高齢者が多いので、サテライト・キャンパスの内容に医療なども取り入れる。
				A	○サテライト・キャンパスは、若者が魅力的で参加したくなるような内容とする。
				A	○サテライト・キャンパスについて、広報紙にQRコードを掲載し、希望講座のアンケートを行う。
				B	○サテライト・キャンパスを婦人団体や老人クラブ、地域行事などに活用して、出前方式で開催する。
				B	○サテライト・キャンパスの講座を、小学校や中学校単位で活用する。
				B	○サテライト・キャンパスを、Web上でのネット会議方式で実施する。
				C	○サテライト・キャンパスの講座を家でも見られるようにする。
				C	○サテライト・キャンパスの講座を初級・中級のようなレベル分けをする。
				C	○サテライトキャンパスの受講者に助成金（年齢を絞る）を出す。
男女共同参画	(5) 市民が主役の 誰もが活躍できるま ちづくり	① 性別や年齢、障 がいに関係なく、誰 もが活躍できる社会 の形成	男女共同参画	B	○男女が平等であるという意識は社会に広がっているが、各指標からみる姿はそうではない。女性に対する人権の尊重、意 識の啓発を更に進める。
				B	○各種会議のほか、人事面においても女性の役職昇格が有効。
				B	○女性があらゆる分野で能力を発揮するためには、一時保育の充実など、条件を整えることが必要。
				B	○女性の登用率を高めるためには、女性からの意見を聞く。
				B	○各種会議などで女性の登用率を高めていくことは大切だが、女性の側から見ると負担に思うこともある。それが専業主婦を 否定することや強制的な方向に向かってはならない。
				B	○差別と区別は違いについて、理解を求める必要がある。表面上、平等が実現されても中身が伴わなければ意味がない。適 正を考慮した結果、男女の偏りがあるのはある程度仕方ない。
				B	○男性が育児休暇を取得できる取組みを推進する。
				B	○DVの悩みを抱える方を地域で孤立させないため、公共施設や人が多く集まる場所で、トイレにポスターを貼るなど、DV対 策の相談窓口を分かりやすくPRして、官民を含め相談しやすい環境整備を図る。
				B	○トランスジェンダーの社会での受入れについては、益々重要になってくる。
				B	○平等という概念について、男女というジェンダー（性別に基づいて社会的に要求される役割などの社会的差別をなくす言 葉として用いられる）として捉えていることが、差別的視点につながっていることはないだろうか。

第7期美唄市総合計画等市民検討会議「部会意見」について

第6期美唄市 総合計画施 策	第7期美唄市総合計画(基本構想)			部会	市民検討会議からのご意見
	基本目標	重点施策	施策		
行財政運営	(5) 市民が主役の 誰もが活躍できるま ちづくり	② 暮らしに根ざし た行財政改革の推 進	行財政運営	—	—
情報化推進				A	○行政文書の電子決裁の導入。
				A	○会議資料が多いため、データによる配布も検討する。
				A	○市議会の資料が膨大で差し替えもあることから、事務の効率化を図るため、電子化する。
				C	○ZOOM(会議アプリ)を活用するなど、他の自治体とインターネットを活用した会議を開催する。
				C	○市民生活におけるキャッシュレス決済の周知
				C	○市役所業務のペーパーレス化(印鑑の省略)。
				B	○情報通信技術の活用による事務事業の簡素化、効率化及び行政運営の高度化を一層進める。